

阪南地域で一斉スタンディングに201人参加



阪南地区協議会が加盟する戦争法に反対する阪南地域連絡会は3月19日、国道26号線の9カ所で「憲法改悪反対！ウクライナ侵略抗議！」の一斉スタンディング行動を実施。参加者は「9条改憲NO」「ロシアはウクライナへの侵略やめよ！」などのプラカードを掲げ、アピールしました。

「労働組合に入ろう」仲間つくり宣伝



北河内地区協議会は3月19日、くずは駅前でなかまづくり宣伝を50人の参加で行いました。春闘ピラとともに、ロシア領事館への抗議ガキ付ピラも配布。それぞれの弁士から「労働組合に入ろう」と組織拡大宣伝と、「ロシア軍はウクライナから撤退を」とロシアへの抗議宣伝も同時に行いました。

普通に働けばまともに暮らせる賃金を！



3月21日、大阪労連非正規労働者部会は14人の参加で春闘宣伝を実施。「普通に働けばまともに暮らせる賃金を！『非正規差別NG』～同じ仕事なら同じ待遇を～」の看板を掲げて宣伝しました。街行く人から「最賃引上げは必要ですね」との声もありました。

消費税減税で暮らし改善を



消費税が始まった4月1日に、消費税の増税に反対する関西連絡会など3者が署名宣伝行動を実施。それぞれの弁士から「物価が上がり生活が苦しくなっている、ここ10年労働者の賃金が上がっていない、そんなときこそ消費税の減税を」と訴えました。

ろーれんフラッシュ

私が働いている城東特別養護老人ホームでは、当初は利用者がコロナ感染した場合は、「病院での入院」だと認識していましたが、昨年の1月、厚労省より「病床が逼迫しているので、施設内で感染者が出た場合はその

職員や利用者がコロナ禍でも安心・安全で利用できる施設をめざして

福祉保育労 財団分会 三野 孝通さん

施設内で療養するようになり」と通達が出されました。そのため、施設内での感染者や濃厚接触者が出た場合は、施設内に仕切りを作って感染者を隔離して、職員は防護服を着て対応しますが、厚労省から防護服の着脱のマニュアルを渡されただけで、専門家による研修などはありません。やむを得ず、施設独自で着服訓練を実施しました。



城東特別養護老人ホーム

コロナ感染拡大当初は、職員が発熱してもなかなかPCR検査が受けられず、「検査に3日待ち、結果に3日待ち」で、1週間も休むこともありました。利用者も当初、PCR検査に時間がかかりましたが、昨

年6月頃から利用者も職員も、週1回受けられる体制になりました。保健所に、クラスターが発生したときの対応を相談していたのですが、あまり対応してもらえませんでした。昨年4月、施設内でクラスターが発生。職員も泊りこみで対応して、約1カ月で集団感染状態は終了しました。このとき、保健所の対応は、入院対応担当者からは毎日電話での体調確認がありましたが、集団感染担当者は数日に1

回の電話での対応で、現場にきませんでした。この間、労使交渉で「陽性者のケアにあたってすべての職員に危険手当の支給」「検査のために休んだ場合は賃金10割支給」などを勝ち取りました。しかし一番の要求である人員増については難しい状況で、法人も人員募集を随時していますが、あまり問い合わせがないようです。新しく入ってくるものが多く、労使双方が困っています。



今後も、職員が安心・安全で働ける職場、利用者も安心・安全で利用できる施設になるように、労使交渉や国・府に対して要請行動など、取り組みたいと思っています。

国労大阪会館を
 研修・学習会などにご利用ください
 JR・天満駅 地下鉄・扇町駅 下車すぐ
 ◆身障者用昇降機設置
 お申し込みは ☎06(6354)0661
 〒530-0034 大阪市北区錦町2-2



タクシー労働者怒りの行動



国労 JR西日本本社前抗議行動

取り組まれました。JMITUは、「第一次統一ストライキ行動」をはじめ「3・6西日本金属労働者のつどい」や「3・17第二次スト決起集会」などを開催。「切実な職場要求に立ちかえり、納得いく回答を得るまで一歩も引かない構えで、たたかい抜こう」と春闘後半に向

また、大阪労連民間部会は、3月7日に春闘宣伝を実施。各弁士から「コロナ禍だからこそ、賃上げと雇用の安定、中小企業支援の実現を。大企業は内部留保の活用・社会的還元を」と訴えました。大阪労連は引き続き、2022春闘勝利に向けて運動を進めていきます。

大阪府と大阪市が民意無視して「カジノ誘致計画」を強行可決
「カジノ」に反対する大阪連絡会」は3月17日と28日、淀屋橋で宣伝行動を行い、それぞれの弁士から、住民の暮らしに寄り添う行政運営を求め「子どもたちの未来のためにカジノはあかん」「790億円の公金投入予算の否決を」と訴えました。また、「カジノ誘致中止を求める署名」の提出行動を行い、これまでに10

2022 春闘勝利に 負けずに向けて

3・10大阪総行動を中心に、各組織では「2022春闘勝利」に向けた取り組みが行われています。大阪総行動当日、各地域では、10カ所で駅頭宣伝(豊能、北河内、北摂、東部、河南、阪南)や宣伝カーの運行、組合訪問、学習会などが取り組まれました。

産別の行動では、国労大阪は早朝の駅頭宣伝、午前中に「春闘統一行動総決起集会」、夕方にJR西日本前での抗議行動。意生協労連は午前中に「意生統一集会」を行って、それぞれ理の理事会への抗議要請行動。全国一般は、中小企業支援への拡充について近畿経済産業局との懇談。福保労は職場でのワッペン闘争や集会、門前宣伝、夕方にはリモートで決起集会。医労連は夕方に大阪ナースウェーブ学習会。自治労連は午前中に大阪府・大阪市への要請行動などが

け意思統一しました。自交総連は、3月10日、大阪タクシー協会と要請交渉を開催。雇用調整助成金を活用して休業補償は平均賃金の100%補償を加盟事業者に指導することや、乗務員負担制度など山積する諸問題を解消するための集団交渉開催などを要求しました。また、4月1日にタクシー労働者怒りの行動を取り組みました。建交労は、「西日本鉄道本部での抗議行動」や、4月3日「トラック・ダンパレード」を行いました。パレードでは「コロナ対策充実・大幅賃上げで魅力ある業界の実現・ロシアの侵略戦争反対」などを大きくアピールしました。

3・11 福島原発事故から11年
原発ゼロ、再生可能なエネルギー中心の社会へ!

3月に発生した東北地方の地震による火力発電所の停止など電力の需給バランスが不安定になり「原発の再稼働が必要」、気候変動を防ぐために「脱炭素のために原発再稼働させては」との意見などがあります。しかし、原発が稼働すれば、放射性廃棄物の処理などで、未来に大きな負担をかけてしまいます。原発ゼロの、再生可能なエネルギー中心の社会へ向け、運動を広げて行きましょう。